

# ■ギョーザ事件をめぐる中国側の発言の変化

事件発生直後	容疑者拘束後
「(調査の結果)中国側でメタミドホスが混入された可能性はすでに排除された」 ＝付志方・河北省副省長 (2008年3月)	「呂容疑者はメタミドホス入りの注射器を持って(工場内の)冷凍保存庫に入り、製品に注射して混入させた」 ＝公安省の28日の会見
「工場内でメタミドホスは使われていなかった」 ＝天洋食品社長 (08年2月)	「工場には木や草地が多い。(メタミドホスを)農薬として害虫駆除に使っていた」 ＝同上
「従業員への待遇は良く、近年労使紛争は発生していない」 ＝同上	「(呂容疑者は)臨時従業員と正社員の待遇に極めて大きな差があり、不満を持っていた」 ＝同上
監視カメラや身体検査によって工場内の管理に「死角はない」 ＝河北輸出入検査検疫局長 (08年2月)	「冷凍保存庫の中には監視カメラはなかった」 ＝同上
「中日関係の発展を望まない極端な分子によって引き起こされた可能性がある」 ＝国家品質監督検査検疫総局副総局長 (08年2月)	「犯行の動機は工場への報復だ。つまり工場への不満だ」 ＝同上

The Asahi Shimbun

## 中国製冷凍ギョーザ事件の経緯

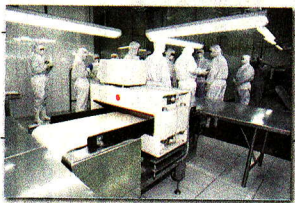


07年12月～  
08年1月  
● 「天洋食品」(河北省)製造の冷凍ギョーザを食べた千葉・兵庫両県の10人が中毒を訴える

08年1月29日  
● 千葉・兵庫両県警の鑑定で、中毒を起こした冷凍ギョーザからメタミドホスを検出

30日  
● 中国国家品質監督検査検疫総局が天洋食品に立ち入り検査

31日  
● 厚労省、天洋食品の全製品の販売を中止するよう業者に要請



2月4日  
● 兵庫県警、包装袋の外側からメタミドホスが検出されたギョーザのうち、1袋の内側と中身のギョーザの皮からメタミドホスが検出されたと発表

21日  
● 日中実務レベルでの情報交換会議

28日  
● 中国公安省幹部、会見で「中国国内でメタミドホス混入の可能性は極めて低い」との見解。日本側が捜査に非協力的と批判

5月  
● 日中首脳会談合意文書で「一刻も早い真相究明のため日中双方で捜査と協力を一層強化する」

6月  
● 天洋製ギョーザで中国でも中毒発症

8月  
● 胡錦濤国家主席、訪中した福田康夫首相(当時)に「一日も早い真相究明のため協力」

10月  
● 「日中刑事共助条約」批准書交換



09年10月  
● 鳩山由紀夫首相、温家宝首相と「食の安全に関する閣僚級定期協議」創設で合意

10年3月26日  
● 中国政府、日本向け製品に毒を入れたとして、元臨時工員の中国人男性の拘束を日本政府に通告